

October 2021

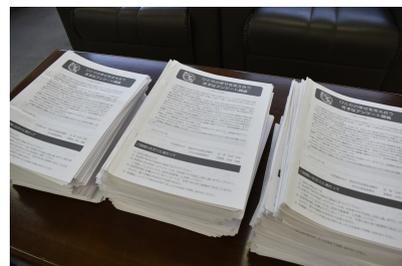


Writer / きずな推進委員会専門委員 田中秀治

医療福祉に従事していたことから、きずな推進委員会に関わり始めました。第1期では中学校区を土壌にきずなの種を蒔き、第2期では圏域を小学校区に移行し道内で先駆的な取り組みとなりました。第3期では我が事丸ごと・地域包括ケアシステムなどが提唱される中、新型コロナウイルスの拡大によりきずな活動も自粛・縮小をせざるを得ず、地域も共生社会も分断されました。

第4期はピンチをチャンスに変え、連合町内会や福祉関係団体、行政などと共に幅広い視野を持ちながら取り組みを実践していきたいと思えます。

第4期登別市地域福祉実践計画（愛称きずな計画）の策定にあたり、市民の声を反映するため福祉活動実践者向けのアンケート調査を実施しました。今回はその結果の一部をお伝えします。



期 間：2021年7月17日～2021年8月13日
対 象：きずな推進委員、町内会役員、民生委員・児童委員、ボランティアグループ、サロン関係者、ファミリーサポートセンター提供・両方会員 など
回収数：603 / 1,060部（回答率：56.9%）

《意見の多かった上位3つ》

身近な地域でどのような世帯が気にかかるか

1. 外出時の移動手段に困っている世帯（38.9%）
2. 介護や介助に困っている世帯（34.7%）
3. 障がいによる不安を抱えている世帯（24.7%）

👉 ひとこと分析

移動手段や介護についてなど、日常生活に直結した課題を切実に感じている人が多いようです

地域住民が主体的に取り組む活動として大切だと感じるもの

1. 高齢者のみの世帯の見守り訪問（68.9%）
2. 災害発生時の避難誘導（61.1%）
3. 自力での雪かきが困難な世帯への対応（50.7%）

👉 ひとこと分析

従来の取り組みに加え、雪かきなどの生活支援の取り組みも大切に感じている人が多いようです

福祉活動の魅力を感じたエピソード

- ・ いろんな方々との出会いはたくさんの発見と成長があり、素敵だと感じます。
- ・ 登校時の見守り活動をして10年、子どもたちの成長がうれしいです。1年生の時泣いていた子どもも中学生になり、礼儀正しくあいさつしてくれます。
- ・ ひとり暮らし高齢者のワクチン接種予約を手伝ったら、その後無事接種できたとお礼の連絡をもらい、ご家族とも知り合うことができました。
- ・ 訪問活動時、季節に応じた「お疲れ様」の言葉をかけてもらえてやりがいを感じる。
- ・ 自分も高齢者なので、福祉活動を通して友人ができお互いに助け合える。

温かなエピソードも
たくさんお寄せいただきました

Kizuna &

地域福祉活動のお悩みは社協まで



社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
〒059-0016 登別市片倉町6丁目9番地1
総合福祉センターしんた21内
TEL / 0143-88-0860
web / <https://kizuna-shakyo.jp/>
mail / info@kizuna-shakyo.jp